

シリーズ「きょうだいの思い」 34

『きょうだい ①』

中学校ではそんなに親交がなかった友達がいたが、卒業後のサークル活動で親しくなり、彼女にも障がいを持つ弟がいることを知った。

彼女との出会いは、それまでに経験したことのないような感触だった。

彼女の弟は5つ下で、9年間の義務教育で重なるのは小学校の一年間だけだったこと、そして軽度の知的障がいのため『見た目ではわからない』ことなど、私とは違う面があった。しかし、それでもお互いに共感できて悩みを包み隠さずに言い合える間柄は、やっぱり同じ『きょうだい』だからだ。『親友』と呼ぶには、少し違う。

お互いに、結婚してからのの方が親交が深まった。

中学を卒業してから30年少し、その時々年代で悩みや気がかりなことがあって、若い頃の恋愛や結婚のこと、生まれてくる子どもの心配、将来の『親亡き後』のことなど...話は尽きない。

そして、彼女と私の共通点は『母親がいるから家族が成り立ち、弟が生きていけること』で、父親に対する愚痴は今も変わらず現在進行形である(苦笑)

共に歩む会でも、数人のきょうだいと出会えた。

同年齢だった一人は『兄の立場』で、彼の多くはない言葉からでも伝わってくるものがあった。

彼との出会いがなければ、男性のきょうだいを持つ『男性ゆえに、多くを語れない辛さやしんどさ』を、私は知ることがなかったと思っている。

今まで私が出会ったきょうだいに共通して言えるのは、いずれ訪れる『親亡き後』に漠然とした不安を持ちながら、子ども時代を過ごしてきていることだ。

私も、その不安を持ち始めた年齢を明確に思い出せるのは小学2年の頃で「お母さんが死んだら、誰が弟を見るんやろう。お母さんもおに思ってきた。

つづく

前穂通信

まえほ通信

発行日

2015年4月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



知的ガイドヘルパー養成研修報告

3月16日(月)、23日(月)の両日でガイドヘルパーを世に送り出しました。内1名の方(男性)が前穂でガイドヘルパーとして従事することとなりました。しばらく研修勤務の後、ガイドヘルパーとして活躍する予定です。ゲストの皆様のお役に立てればと願っております。

また、本年度も4月より大阪府立福井高等学校の福祉課コースの生徒の皆さん40名への知的ガイドヘルパー養成研修の実施を予定しております。

今回も生徒の皆さんへガイドヘルパーという仕事の楽しさや重要性をお伝えしたいと思います。

スタッフ日記



入社5年目の牧野祐典です。入社当初は仕事1本で必死だった毎日ですが、今では幸いにも2人の息子を授かり、家でも奮闘しております。子供を持ったことで少し親の想いを学ぶことが出来ました。これからも、ご本人だけでなく、ご家族に寄り添えるスタッフへと成長できるよう努めて参ります。